

乾政宮の復元的研究

-ユネスコ世界遺産・フエの歴史的建造物群の保全計画-

Rehabilitation of the Palace of Hue -Conservation Program for the Hue Monuments Complex, UNESCO World Heritage-

中川 武 (NAKAGAWA Takeshi)

早稲田大学・理工学術院・教授



研究の概要

ユネスコ世界遺産「フエの建造物群」(1993年登録)に対する適切な修復・保存方法の確立と失われた阮朝・乾成宮に対するベトナム政府主導による再建計画事業に資する学術情報の収集をベトナム文化情報省およびトゥアティエン・フエ県人民委員会、同県立フエ遺跡保存センターの要請、協力支援を得て、国際協力の枠組みの下で行った。

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学 建築史・意匠

キーワード：国際協力、技術移転、政策研究、ベトナム、フエ、修復、保存、王宮

1. 研究開始当初の背景・動機

阮朝・乾成宮はその正門である大宮門と勤政殿・乾成殿など紫禁城内の主要な宮殿建築群によって構成され、伝統的な配置計画の規範を踏襲して南北主軸線上に置かれている。王宮の中で最も重要な宮域であったために、20世紀初頭の植民地期のフランス人研究者が調査許可を得られず、更にはベトナム戦争の渦中に焼失してしまった経緯により、これまで実測値などの一次資料が圧倒的に不足していた場所でもある。本研究に至るまで平成6年度から開始した科研費による継続研究の結果、各々の基壇上の柱配置などの実測と床面の装飾タイル等の痕跡調査が行われ、復原考察を開始する上で基盤となる平面情報が概ね収集・整理された状況にあった。

2. 研究の目的

上記の成果を格段に前進させるため、基礎研究8項目、応用研究5項目の遂行を目的とし、上位目標として以下の2点を設定した。

(1)大宮門と勤政殿によって構成される区域(勤政殿区域)の発掘調査を行い、基壇の構造と耐久性を解明する。当該区域は、史料により阮朝初期に宮殿の移築など大幅な改変が加えられたことが判明しており、発掘調査の遂行により阮朝初期の造営計画を実証的に知り得る可能性が高い。

(2)勤政殿区域の復原模型を制作する。阮朝前・後期に区分し、当該区域の変遷を模型制作を通じて考察する。部分模型を別途制作し、接合部の復原など架構の技法に関する

考察と細部意匠の復原が試みられる。

3. 研究の方法

○再建計画を支える基礎研究項目

- (1)フエの建造物群の基礎資料集成の作成
 - (2)細部意匠の悉皆調査とデータベース
 - (3)阮朝・史料の収集および読解・整理
 - (4)伝統技術保持者に対する聞き取り調査
 - (5)日本・韓国・中国の都城と宮殿建築との比較調査
 - (6)先行事例研究
 - (7)歴史的都市の保存・再生計画に関する調査
 - (8)文化財保護行政、技術移転、国際協力に関する調査
- 乾成宮復原に関する応用研究項目
- (1)基壇発掘調査計画の策定
 - (2)復原設計研究
 - (3)材料・施工技術調査
 - (4)環境復原調査
 - (5)マスタープラン

4. 研究の主な成果

以下、学術的に特に重要な進展のあった4点について概要を報告する。

(1)乾成宮・勤政殿復原研究

現在は基壇のみが残される乾成宮の復原的研究は当該研究の中心的課題である。光波測距儀、GPS測量器を使用し実測調査を詳細に行い、乾成宮全体の配置図作成と現状把握を行った。中でもベトナム国側の要請の強い勤政殿の復原へ向け、詳細な現況実測図を作成し、併せて漢籍資料、仏文資料等を参照し、過去の改変履歴を考察した。啓定期に撮影された白黒写真等を

利用した寸法値の割り出し、試験的な勤政殿の3DCGモデルの制作も行った。

(2) 宮殿建築の設計方法・構造特性分析：太廟区隆徳殿解体調査

太廟区隆徳殿の解体修理工事に参加し、勤政殿の失われた上部架構の復原設計に向けた比較情報の収集に努めた。平面図、立面図、断面図の基本図面および礎石レベル、柱の傾斜・内転び、隅伸び、基壇の反り、軒反り等の修理設計の基礎となる情報を収集、常時微動測定、材料試験、1/1 接合部模型を使用した強度実験、実物構造試験等を行い、フエの宮殿建築の構造特性を分析した。

(3) 伝統的技術保持者への聞き取り調査

フエにおいては宮殿建築と伝統家屋の架構形式は、規模を除けば非常に酷似しており、その設計方法に密接な関係性があることが伺える。そこで現地の伝統的技術保持者(大工)に伝統家屋の模型制作を依頼し、その制作に並行して聞き取りを行うことで、伝統家屋における設計技術を解明することを目指している。宮殿建築の設計を生業とする専門の技術者や日本の木割書、規矩術書に代表される建築技術書の類が未発見である状況の中、まずは伝統家屋の設計方法について知見を得て、それに基づいて宮殿建築の設計方法を復原的に考察した。

(4) 歴史的都市の保存・再生計画に関する調査

都市計画的観点から文化遺産を擁する都市であるフエの伝統的環境の保存と活用に関する指針の策定を目指した。ヴェトナムの都市行政担当者やその他専門家を交えた場で都市像の設定や都市計画手法の提案を行った。旧市街における住環境、歴代皇帝陵の周辺環境、歴史的環境周辺の居住者の再定住計画等を中心にフィールドサーベイを継続的に進めたほか、遺跡保存と都市デザインに関するワークショップを行った。一連の活動の成果は現地行政側の高官レベルには浸透しつつあり、当該組織が断続的に配布した報告書はに活用されている。

5. 得られた成果の世界・日本における位置づけとインパクト

本研究は、ユネスコ世界遺産の保全に資する学術情報の提供を可能とするための12年間に渡る当該研究組織の研究活動の蓄積を踏まえて行われた。研究結果の一部は、阮朝王宮の宮殿建築の再建事業に資する学術情報を含んでおり、我が国の対東南アジア・国際協力活動の観点からの技術協力として、ヴェトナム側にとって重要な価値を持っている。至近の平成18年10月のヴェトナム政府・グエン・タン・ズン首相訪日の際には、対象文化遺産を管轄する同国トゥアティエン・フエ県知事が首相訪

日の一団に加わり、勤政殿の再建事業を日越文化交流事業の枠組みが成立しつつある。

当該研究活動は、我が国の平城京の整備計画や沖縄・首里城のそれに先行事例を求めることができ、阮朝が整えた紫禁城内の中央を占める乾成宮内の正殿である勤政殿も、時代の差異はあるものの平城宮・大極殿にその建築規模と構法の類似を求めることができ、大極殿が2010年に奈良遷都1300年を記念して再建されることを念頭に置けば、我が国の文化行政における大極殿再建の意味合いと同等の社会的インパクトをヴェトナム社会に与えることは確実であり、そのような事業に我が国からの国際協力が重要な役割を果たすという社会的意義も認められよう。

6. 主な発表論文

(研究代表者は太字、研究分担者には下線)

(1) 坂本忠規, 中川武, 中沢信一郎, 林英昭「勤政殿の復原的研究 (VII) —ヴェトナム・フエ・阮朝王宮の復原的研究 (その97)」『日本建築学会関東支部 2004年度 研究発表会 研究報告集 II』pp.381-384, 2005

(2) レ・ヴィン・アン, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 林英昭「乾成宮の復原的研究 (XII) —ヴェトナム・フエ・阮朝王宮の復原的研究 (その111)」『日本建築学会関東支部 2005年度 研究発表会 研究報告集 II』pp.441-444, 2006

(3) 林英昭, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, レ・ヴィン・アン「伝統住宅の設計技術 (III) —ヴェトナム・フエ・阮朝王宮の復原的研究 (その115)」『日本建築学会関東支部 2005年度 研究発表会 研究報告集 II』pp.457-460, 2006

(4) 大塚健司, 中川武, 中沢信一郎, 林英昭「京城の配置計画について X ヴェトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その122)」『日本建築学会関東支部 2006年度 研究発表会 研究報告集 II』pp.373-376, 2007

(5) 綿貫志野, 中川武, 中沢信一郎, 林英昭「南郊壇の配置計画について II ヴェトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その124)」『日本建築学会関東支部 2006年度 研究発表会 研究報告集 II』pp.381-384, 2007

ホームページ等

「ヴェトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究」

<http://www.hist.arch.waseda.ac.jp/index-J.html>

ユネスコ世界遺産研究所

<http://www.heritage.waseda.ac.jp/>